

が、左を差されて万事休す、翌九日目は初顔の鬼ヶ嶽が相手。2敗を守るためには負けられぬところだが、立ち合いから鬼ヶ嶽が右のど輪で攻めてそれをかいくぐろうとする雪若丸が左を差そうする体勢を探りながら土俵を数周したところで水入り。再開後も土俵を回る展開となったが一瞬のスキを突いた雪若丸が鬼ヶ嶽のど輪を跳ね除けて「居ぞり」という珍しい決まり手での決着となった。

1敗勢が敗れる中3人目登場は鹿富士。相手は十二枚目の電幕との一番。「何で鹿富士とあたるんだよ」と異を唱える錦風親方。しかしながらここまで2敗と好調さを買われ対戦なので順当と言えれば順当と言えそう

かたや、錦風勢との対戦には育成会の取組みからライバル心を燃やす鹿賀乃戸親方にとつては他の部屋の方力士との対戦よりも一段と気合が入るようだ。立ち合いのすべのど輪攻めに来るのを読み切った鹿富士が深く左を差して万全の形で寄り切り

しかし、8勝目をかけて挑んだ喜乃郷には押し倒されて手痛い2敗目を喫した。

2場所連続優勝を目指す春雷は八日目に若指と対戦。ともに左を差し勝ったのは若佐。差されてしまったのは何もし攻め手が無い春雷と付きは誘うくは若佐の腹の。結局そのまま向正面に寄り倒されて若佐が勝



鬼ヶ嶽●(居ぞり)○雪若丸



鹿富士○(寄り切り)●電幕ん



春雷●(引き落し)○若佐

気を取り直しての九日目の相手は電幕。「何で春雷と当たるんだよ」と今度は電幕自身から思っているが、八日目の鹿富士戦に続いて上位との一番。鹿富士戦と同様に春雷が左差しから危なげなく寄り切りを下した。

九日目までを終了し、2敗勢4人の中で唯一喜乃郷が他の3人との対戦を終えており、やや状況的に優位となるのか優勝争いは千秋楽までもつれそう。3敗勢にもまだチャンスは残されているような展開になるのか楽しみだ。

心配なところでは、幕内で好調な磯ノ海部屋勢に対し、十両の水島嶽と磯ノ丸がまだ白星一つと絶不調。特に水島嶽は親方からも見放されるかもしれない。(勝間田)

幕下は暫か勝ノ川か

幕下は三日目と四日目を開催。3連勝対決を制した暫と勝ノ川が千秋楽優勝をかけて争うことになった。東筆頭で十両返り咲きを果たしたい大櫓は暫と虎影に相次いで敗れ2勝2敗となり千秋楽に勝ち越しをかけることとなった。

その大櫓との一番を寄り切りで下し勝ち越しを決めた暫は四日目磯雷光を際どく叩き越して十両昇進に近づく貴重な4勝目を上げた。



春雷○(寄り切り)●電幕



大櫓●(寄り切り)○暫



暫○(叩き込み)●磯雷光

友砂理事長もこれで昇進を確信したのか安堵の表情を見せ、先場所の悔しさ見事に晴らした。

一方の勝ノ川は阿古耶川の引退枠として入ったのだが、あれよあれよと4連勝。まさか親方もここまでとは思ってもいなく嬉しい誤算といったところ。

四日目3連勝同士の三国との対戦。三国はここまで3日間とも右からの攻めで白星を重ねて、西の富士らの難敵を退けている。逆に勝ノ川の3勝は全て左を差して勝負を決めていて右と左の攻め合いといったところか。

立ち合いで予想通り三国が右攻めで先手を取るが勝ノ川もつられ見るやのど輪で応戦。どちらが右を押し込むかという展開に押し込み最後は勝ノ川の一押しが入り押し倒して決着となった。



三国●(押し倒し)○勝ノ川

千秋楽の全勝対決、実力的に暫の優位は硬いところだが勝ノ川の一発にも期待したい。そして最後の学生出身力士だった東十六枚目の九頭龍がライバル部屋の醍醐に引導を渡されて負け越しがきまり廃業となった。(勝間田)

三段目、序の口

三段目は四日目を終えて西旭と亀風が4連勝。西旭は東五枚目なだけに来場所の幕下昇進が濃厚だ。この西旭部屋の先輩である龍天和風が似ており、早くもオールドファンから「ゴテンリユ」との掛け声が掛かって



西旭○(寄り切り)●藤丸

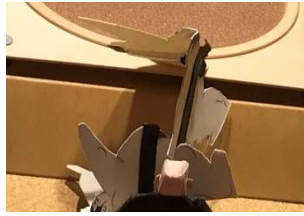
亀風も全勝すれば名門富士浪部屋から久々の幕下力士誕生だけに、千秋楽の西旭との対戦に期待がかかる。

東筆頭の大松戸部屋の戸田は四日に桃乃浜を破り2勝2敗の五分とし、千秋楽に大松戸悲願の幕下昇進を賭ける。

序の口では場所前から高評価の龍神丸が順調に白星を重ねて4連勝と評判通りの強さを発揮している。全員まさかの2連敗と心配された桐壺の新弟子三人衆だったが、三日目、四日目と連勝し、さすが桐壺の力士達と周囲をうならせた。(鹿賀乃戸)



片貝●(寄り切り)○龍神丸



他力岳●(寄り切り)○虎麒麟



綱櫻●(叩き込み)○亀風

